

芽節が生み出す 新しい価値

me b u k i 椀

株式会社 匠頭漆工



- 漆器業界では、木の節が入ったものは「節が硬くて加工しにくい」「節から割れが走りやすい」等の理由により、傷物として扱われ、製造時や検品時に廃棄処分となります。割合は材料全体の1～2割ほど。
- 節が入った木地をあえて使い、独自の乾燥工程と切削技術、入念な目止めと拭き漆という手法により、表面を強く、美しく仕上げています。
- 節のある製品が、貴重で価値のあるものと認識され、業界での扱いが変わることを目指しています。

審査委員コメント

これまで廃棄されてきた節入りの木地を、独自の加工技術により、縁起物のお椀として仕立てたものです。歩留まりの向上に資する点に加え、漆器業界における節入りの価値向上への願いが込められている点を高く評価します。また、製品コンセプトのみならず、工芸的な美しさも兼ね備えており、国内外での市場拡大が十分に期待できます。